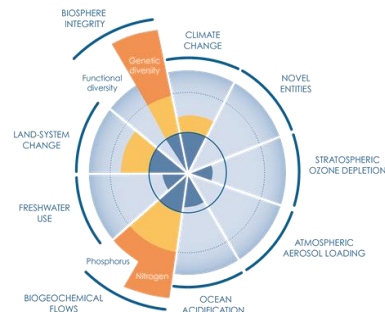


革新の『グリーンサイエンス』 持続可能な美しき未来のために。 ～第三章 ロレアルの確信～

ロレアルでは、気候変動や生物多様性など、世界が直面する切実な課題をグローバル規模で考察。サステナブルな世界の実現を目指し、掲げたL'Oréal for the Future (ロレアル・フォー・ザ・フューチャー) プログラムの下、社会、環境、そして消費者へのコミットメントなど、さまざまな活動に取り組んでいます。ロレアルの研究部門であるR&I(リサーチ&イノベーション)は、独自のフィロソフィー『グリーンサイエンス』が、世界を動かす美の原動力となることを目指しています。すべては、自然とサイエンスの持続可能な調和によって育まれる“美しい未来”のために。



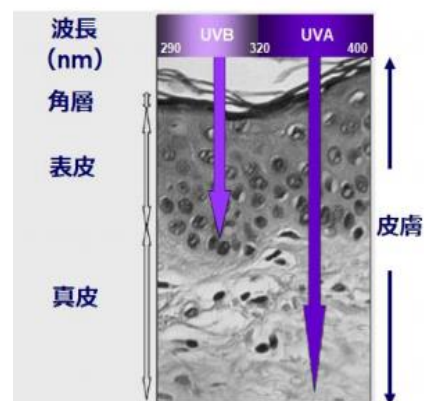
地球の限界 (プラネタリー・バウンダリー)

進化しつづけるロレアルの光老化研究と『グリーンサイエンス』

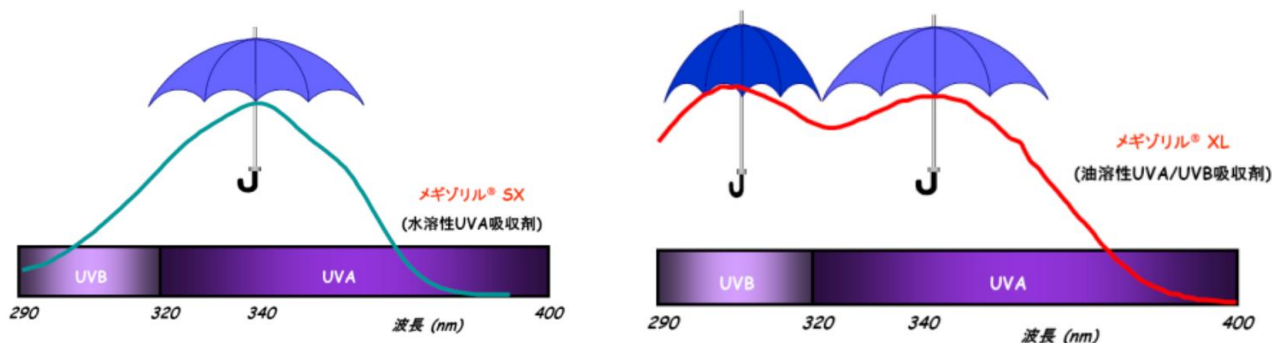
2020年にスタートした「ロレアル・フォー・ザ・フューチャー」より遥か以前、1936年に世界で初めて日焼け止めオイルを発表したロレアル。以来、長年にわたり紫外線による光老化研究を推進。日照時間の少ないヨーロッパでは、小麦色の肌がステータスでありタンニングはあたりまえ。そんな美容習慣が根強く残る時代に、いち早く紫外線A波 (UVA) の研究をスタートさせたのもロレアルです。

大きな節目となったのは、1982年に開発したUVA防御成分メギゾリルSXの誕生です。その6年後に、UVAのみならずUVB防御にも効果的なメギゾリルXLを開発。

1999年には、世界でもっとも厳しいと言われる日本の厚生労働省からメギゾリルSXが、2002年にはメギゾリルXLが、相次いで紫外線防御剤として承認。以来、紫外線による肌ダメージの防御に、世界市場でUVケアのパイオニアとしてリードし続けているのです。



UVAとUVBの肌への影響比較



メギゾリルSXとXLの特徴図解

メギゾリルSXとXLは、ともにロレアルR&Iで開発された光安定性の高い紫外線フィルター。紫外線を含む光によって変化することなく、長時間紫外線防御機能を発揮することができます。また、メギゾリルSXはUVAを吸収、水に溶けやすく、一方メギゾリルXLはUVAとUVBを吸収、油に溶けやすい性質を持つことから、両方を組みあわせることによって、UVAとUVBに対する幅広い防御力と、さまざまなニーズや肌質に対応した製品開発が可能に。開発から20年以上、ふたつのメギゾリルは、高い実績のもと多くのロレアル製品に配合され、UVケアの可能性



30年後の比較シミュレーション
メギゾリルSX使用（左）と 使用なし（右）

を開花。今後は独自のフィロソフィー「グリーンサイエンス」に基づき、環境負荷への低減や戦略的なイノベーションを推進、よりサステナブルに進化させ、未来へと引き継いでいきます。

【コラム】 1970年代後半、有害な紫外線Cが地表に届くのを防ぐオゾン層に大きな穴が開いていることが確認され、皮膚がんや白内障の増加、生態系への影響が懸念されました。この穴の原因は、フロンであり、当時エアコンや冷蔵庫の冷媒として広く使用されていました。1985年、世界各国の政府はフロンの代替に取り組み、世界中でオゾン層破壊物質の99%を削減することに成功しました*。近年、オゾン層は回復傾向にあります。1960年レベルに戻るには21世紀末になると予測されています**。一方で、フロンの代替物はオゾン層の破壊は起こさないので、それらの温室効果は二酸化炭素よりもはるかに高いことが分かりました。現在、様々な産業分野で使用量の削減、排出量の削減、代替物の開発等の努力が続けられています。

ロレアルの2030年の気候変動に関する包括的な目標は、グループ全体で温室効果ガス排出量を最終製品一個当たり50%削減することです。私たちは、生産・流通施設だけでなく、原材料のサプライチェーンや、製品を使用することによる間接的な影響も含めて活動のあらゆる側面に数値目標を設定しました。2030年までに、製品輸送関連の温室効果ガスの排出量を、2016年と比較して、平均および完成品1台あたり50%削減します。これらの取り組みはすべて、私たちが知っている地球上の生命を維持することを目的としており、中でもオゾン層破壊物質の排出を削減することは最も重要な取り組みの一つです。

* モントリオール議定書採択30周年及びH F C改正採択記念シンポジウム（2017年）

**平成30年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告書（環境省）